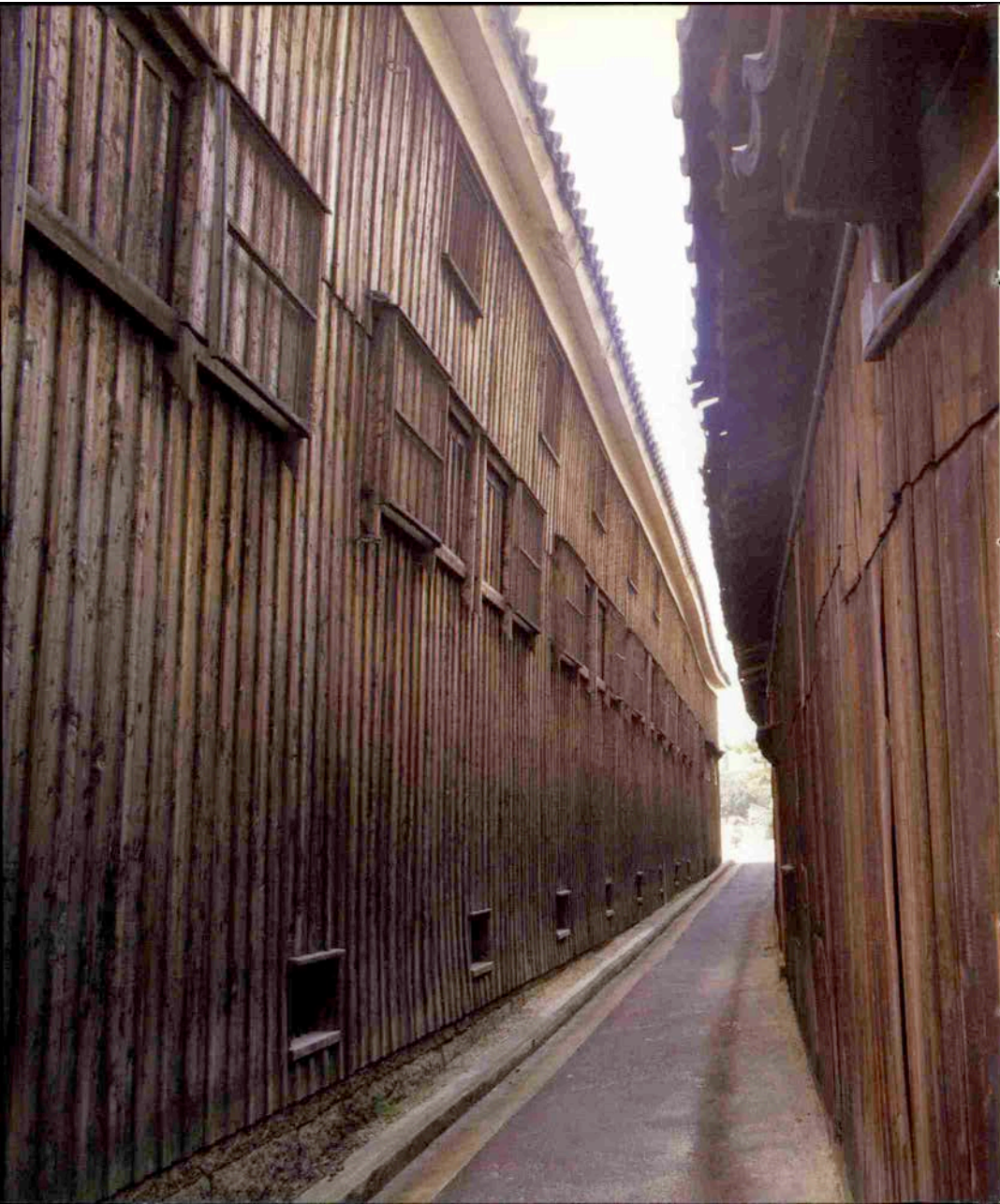


# 神戸の風色

KOBE●FUSHOKU

堀内初太郎 NO.60





恩



神戸

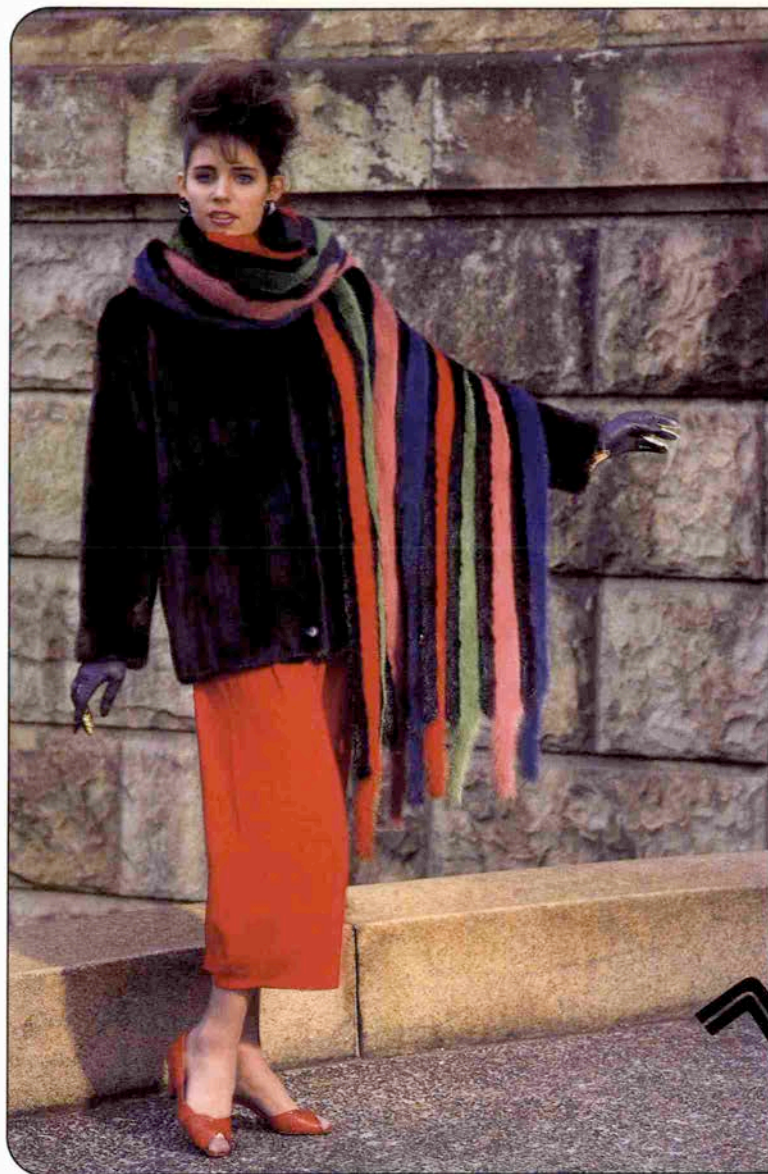


本社  
神戸

- 商業
- ディ
- マネ

こん  
海が  
神戸  
ぜん  
'MA





'84'85

ベニーファークレクション

キラキラと

輝く女に

なあれ

ブラックグラマ ミンクジャケット N.Y.  
&  
ダイドミンク ビッグストール  
各色1本ずつ取りはずしが出来ます。  
ベニーオリジナル/JAF出展作品



SINCE 1959

最高の品質と信用を誇る毛皮専門店

**ニ一毛皮店**

〒651 神戸市中央区御幸通 8 丁目 1 - 6

神戸国際会館 1 階

TEL (078) 221-3327(代)



毛皮も個性で着る時代  
磨かれますか、貴女の感性。



「ムラタ甲子園店」がオープンしました。

(甲子園球場南・阪神パーク隣 TEL 0798・48・5218)

(左) フォックスハーフコート(ブラック)

(右) フォックスブルゾン(チャコールグレー)

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

 **ムラタ**

さんちかレディスタウン／神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886

本社／神戸市中央区元町通6丁目7番8号 明邦ビル ☎(078)341-8041代





*Merry Christmas*

*&*

*Happy New Year*

*1984 ~ 1985*

銀鱗をきらめかせて

青い海を舞う

マーメイド

人魚のように…。

深く静かな女の魅力を。

クリスマス、お正月などのフォーマルドレスが揃っていますので是非お出かけ下さいませ。



クチュール&ブティック

**ウインザー**

山田 富紗子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目  
さんプラザ2F TEL (078) 331-7952

いいものは時代をこえて生き続けます

# ゴーフル



## 贈る心にお菓子をそえて

お歳暮には、お子様からご年配の方まで、どなたにも愛され続けているゴーフルをどうぞ。バラエティー豊かな詰合せをご用意致しております。



### 神戸 風月堂

本社・神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎(078)331-5555



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
 これは神戸っ子の手帖です

## 12月号目次 ● 1984・No.284

表紙／小磯良平

セカンドカバー／スケッチブックから 72／ヨーロッパを描く／西村 功

9 神戸っ子 84／高田香里・西垣俊郎

12 ある集い／芦竹会・長谷昭二郎

15 コウベスナップ

16 エトランゼの輪郭 (34)／藤田清照

18 神戸の風色 60／堀内初太郎

29 わたしの意見／柏原英通

31 随想／小田 薫・日高君也・吉田量子

34 随想・旅のかたち (2)／安水稔和・カッポ 中西 勝

36 こうべ味な旅 (6)／松山 猛・カッポ 石坂春生

39 地域文化論 (その64)／太田義人

40 キャンペーン／対談 日中友好交流によって関西経済・文化の復興を

47 経済ポケットジャーナル

48 C I N E M A 特集

I 映画発祥の地神戸に記念碑を建てるための座談会

「メリケンパークに映画の記念碑を」

50 II 白羽弥仁監督インタビュー 学生監督、自作「セピアタウン」を語る

52 III 小栗康平監督インタビュー 「泥の河」から「伽椰子のために」を語る

54 IV 深作欣二監督・松坂慶子・志穂美悦子が語る「上海パンシキング」

57 第1回「神戸の新しい風景」フォトコンテスト入賞作品発表

58 宝塚対談／内海重典と橋名由梨

62 話題のひろば 1 オール関西を動かし育てる会 大阪編

2 第7回美術家野球大会

3 ロースガーデン美術公募展表彰式

66 珈琲を飲みながら／「芝居も食えなきゃ本物じゃない」太田タマコ VS 辰巳彦郎

69 神戸の集いから

70 KOBE LIVING TOMORROW 2／パート1「すまいと光」黒田公三

72 ファッションレポート／フットアートギャラリー「アルカンシェル」を訪ねて

76 ファッションスポット

84 NEUE MODE MARCHEN 82／篠原順子

88 小山乃里子の華麗なるKOBE見てある記／神戸ジャズストリートをはしごして

104 もうさんのHYOGO・WALK 8／マンガ・高橋 孟

117 コーヒーブレイク

118 動物園飼育日記 229／亀井一成

122 元町キャンペーン (座談会)／木曜クラブ

124 神戸を福祉の町に (132)／橋本 明

126 有馬蔵時記 (12月)

128 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳

131 KFSニュース

132 兵庫県歴史／ほんくら族 10周年のばか騒ぎ こじまのブコ

134 ふらっしゅ・ぱく (50)／渡川長治

136 KOBE MODERN CULTURE

138 コスモファンタジー／数1000回の明日こそ4／佐藤晴美

145 ぴつといん

146 百店会だより

148 ポケットジャーナル

152 小関三平の「神戸おもしろ風俗記」

156 トラベルコーナー

158 連載小説／薔薇の宣言 最終回 菊地佐紀／絵・池内 登

178 連載エッセイ／風のファンタジア 12／吉村由美 絵・南 和好

182 海船港／神戸港の歌ができた 神戸青年合唱団

カメラ／米田定蔵・橋本英男・池田年夫・坂上正治・田村 康

松下孝一・松原卓也・北方利明



目次作品／宮崎豊治「身辺モデル」



# 女、鼓動てますか。

業界で脚光を浴びている当社独自の瘦身美容。エステティシャンが考え、素肌美だけを追求した「バミール美粧品」コスモポリタンシティ、神戸・元町を拠点に全国各地へ、次々とオリジナル・ブランドを発表。

女。—それは変幻自在。高塚省吾／絵



今回は2時間で5-cmダウンの瘦身美容。またはお肌の悩み(にきび・しみ・小じわ・かぶれ等)をお持ちの方のために、特にやさしいオリブオイルのフェイシャル美容を、お一人様一円限り無料にてお試し頂けるよう企画致しました(神戸店のみ)  
なお、ご来店の前には電話にてご予約下さい

国鉄・阪神元町駅

元町商店街

南京町

コスメテックス神戸コーポレーション

●大丸

神戸駅前

札幌・仙台・渋谷・原宿・横浜・名古屋・京都・大阪・和歌山・神戸・広島・山口・徳島・高知・博多

コスメテックス神戸コーポレーション

神戸市中央区栄町通1-2-29 豊和ビル3・4F

無料体験シリーズ予約係 078-391-4077(代)

お試し券

神戸っ子12月号

ファッションパークのクリスマス

11/23<sub>Fri</sub> ~ 12/25<sub>Tue</sub>



ショッピングは、楽しみである。

リザ・サロン

ベンチ

Caro's

VICTOIRE

ダイアナ

サイズショップダイアナ

ルベール II

ランプ

ゲルラン

東京屋

新宿・高野

BONフカヤ

ココ山岡

ブランコ

ホットマン

三愛

電話078(332)1698

**FASHION  
PARK**

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

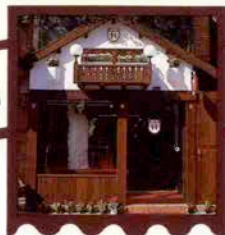
**3F**

12月は休まず営業いたします。

営業時間 ———— A.M.11:00 ~ P.M.8:00



ケーキおいしい



家庭にしあわせ

板宿で一流の味との出会い



スイス菓子  
**ハイジ** 板宿店  
10月25日オープン!



**LIC** LOOK INFORMATION CONSULTANT 株式会社エルアイシー

商業店舗不動産コンサルタント

代表取締役 青木 幸夫

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1

ポートアイランド 国際交流会館7F

PHONE (078) 302-4009 (代)

**LOOK5** 株式会社 ルックファイブ

—人はこころ 店もこころ—

商業店舗・・・企画・設計・施工

代表取締役 村上 健

〒653 神戸市長田区西尻池町3丁目1-24

PHONE 078 (641) 8451 (代表)



☆私の意見

# “山”と“海”に 開け行く

## 21世紀の神戸

柏原 英通

△神戸市開発局長△



開発局の担当は神戸の“山”と“海”。現在進行中のプロジェクトは、山側は西神地域の開発、海側としては目下埋立て中の六甲アイランドが“目玉”ですね。

西神地域は、文字通りのニュータウンです。その概要を申しますと、神戸総合運動公園は、ご承知の通り、来年夏に開かれるユニバーシアード、神戸大会のメイン会場。研究学園都市は、研究施設と教育施設とを合わせもつ住宅団地で、人口は二万人の予定です。神戸外大、神戸商大の他、二、三の大学・短大の誘致が決っています。現在、一八〇〇世帯、六三〇〇人が住んでおられる西神住宅団地の将来人口は六七〇〇〇人。毎年、一万人以上の人口増を見込んでいます。

西神地域は、“住み、働き、学び、憩う”新しい街。“働く”西神工業団地は住宅団地に隣接し、一二七社が進出、すでに六十八社が稼働中です。住宅第二団地の北には、第二工業団地が出来ます。先のが西神IPハイテクストーリーパークVというのに対し、こちらは神戸HPハイテクパークV。情報機器や電子工学などこれまでの神戸にない新産業を誘致したいと思っています。

一方、六甲アイランドは、六十パーセントの造成が終わり、すでにフェリーも発着し、食品関係の工場も稼働しています。ポートアイランドと同じように、中心部に一二〇ヘクタールほどの都市機能用地を計画中です。

基本理念としては、CATVに代表される情報機能を中心とした企業を誘致し、さらに国際性をもつ施設、関西新空港に対応するエアーカーゴターミナルなども考えています。もち論、住宅地区もあり、三万人の人口を予定しています。これは夢の段階ですが、六甲アイランドでは水をうまく利用して、例えば水路を走らせたり、人工渚をつくったりというように、水に親しめる街にしたいと考えています。

西神地域も六甲アイランドも、街として完成した姿を表わすのは昭和六十五年頃の予定。神戸の顔も二十一世紀へ向って変りつつあるといえます。

(談)

Merry Christmas!  
Most Beautiful Quality Life

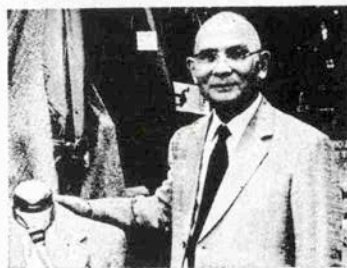


創業明治十六年

**金 柴田音吉洋服店**

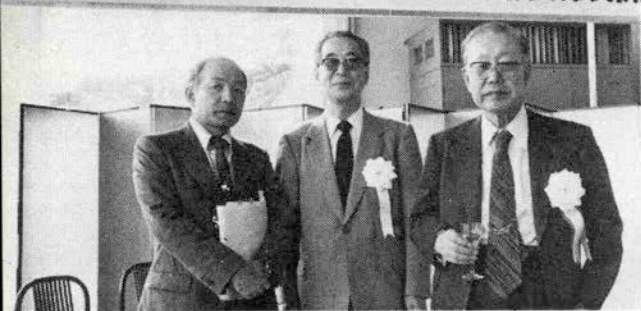
神戸・元町4丁目南 TEL.(078)341-0693  
大阪・高麗橋2丁目 TEL.(06) 231-2106

ハイセンスな紳士服で  
最高のおしゃれを



**三恵洋服店**

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290



須磨離宮現代彫刻展表彰式にて、宮崎市長と河北倫明京都国立近代美術館長（筆者左端）

## —N君への手紙— 『彫刻の中の風景』 小田 襄

△彫刻家△

N君、貴方はもう御覧になった

## 随 想



カット／小田 襄

でしょうか。野外展のメッカであるあの須磨の彫刻展を。正確には神戸須磨離宮公園第9回現代彫刻展と言う名前で、一九六八年から開催され、ビエンナーレです。十六年も続いている日本でも大規模な彫刻の野外展示です。貴方は彫刻とは本来太陽の下でこそ立体芸術の魅力を発揮するものだから、あの美しい海が望める高台の緑の中の離宮公園では、それぞれの素材とフォルムが周囲の環境と交わりながら、いくつもの詩を形造っているとおっしゃるでしょう。たしかに、あの広い緑のジュートンの如き芝生と噴水の変化が織りなす景観の中で二・三メートル位の作品から大は十メートル近い大きさのもの、重さは素材によって違ってきますが、八千キロもあるのも並んでいて、全部で十八

点の現代彫刻はすばらしい表情を見せています。

ところで、彫刻が人体と言うテーマをはなれて、人間の内的世界、あるいは一つの宇宙、または素材による構築を示し、やがて新しい空間の模索を始めたのはいつごろからだったのでしょうか。歴史の中で形造られた幾多の人体像の数々は想像することは出来ても、いっぺんにそれを誰も見ることは出来ないと思います。貴方も僕も人間ですが、人とは一体何なのでしょう。昔から何人かの彫刻家が、人体を刻みながらそう思い続けたのでしょうか……。僕は、もう一つの疑問、歴史の中で人体像がこんなに沢山彫刻されながら、それを不思議と思わない不思議を感じた時、自分が人体像を別の角度——いわば、それを世界の一部として捉える方向に歩み出していったようです。世の中には自然も含めいろいろなものが存在し、人がつく上げたものは、大抵形と機能性とが結びついていきます。コップは水を、車は自動で働き、オートモビルと呼ばれたり、紐は結ばれるために。ところが抽象的なものであれ人体像であれ彫刻と言う名の物体は、それ自身何の機能性がないように見えます。ただ精神的、あるいは心理的な効用がその構造と素材によって示されようとして



いるだけです。ですから、彫刻作品はパーソナルなイメージを源に持ち、遠くまで行こうとする芸術だから現代では最もゆっくり歩む思想だと貴方は笑いながら言うかも知れません。

今年の夏は日本中そうであったように、僕の世田谷のアトリエもたいへんな暑さでした。単純化された美しい曲面を求めて春先から制作を始めましたが、ちょうど内部構造の熔接作業の時に夏に入り、アトリエは三十八度、作品の内部では火を用いると四十五度以上にもなったものです。

とまれ、「風景船」と命名されたステンレスの作品は周囲に貴方も含めた通りすぎる風景を映しながら東京から神戸に、それから一つの未来に出發したようですね。そして、人は誰でも自分の風景を持つているのでしょいか。忘れ得ない一つの景色、記憶の中でいろいろ思い浮んでくるいくつもの情景、時間の中を通っていくそれぞれへの想いが交差する光景……イメージは結ばれたり離れたりしながら感覚的にある領界を創ると思われてなりません。

過去、現在、未来——約束することの出来ない多くのものとの出逢いと別れが存在する流れの中に生があるのかも知れないと考えたりするのです。

## キャラクター作りについて

日高 君世

△漫画スタジオ漫協△



ちまたで、「キャラクター」と、よく言われているものを、私は作っている。キャラクターとは何ぞや？簡単に言えば、ミッキーマウスとか、スヌーピー等である。

よく人に

「キャラクターは、どうやってできるのですか？」と聞かれる。

仕事、(たとえば、新キャラクターを作るぞ！)と言って、机にむかっていたらできるわけではない。それでは、遊んでいたら、できる！と書きたいのだが、遊んでいる時は、当然、遊びに熱中しているの、できるわけがない。

——じゃいつ？……いつもという訳じゃないが、友人らとただ話をしていての時間が一番、その他は一人でボーッとしている時である。

私の入っている「漫協」というグループには、他にもキャラクターを創っている人がいる。それぞれのキャラクターは、元の英語の意味通り、作る本人の性格を、暗示している。私の場合、なぜか創るキャラクターに耳が、付かない。

たとえ人間を書いてでも耳はない。友人達は、それを「聞く耳持たん、キャラクター」と呼んでいる。

また、多くの人が良いと言うキャラクターは、創る人が、そのキャラクターについて良く解っているのである。——それはどういうことか？たとえば、野菜のキャラクターを創れる人は野菜が好きなのだ。そして野菜自体を、端から見れば怖い程、理解しているのである。ネコなら、ネコをよく見、愛しているのである。

ちなみに、私のキャラクターで、たまたま有名なものに、「わしもそう思う博士」がある。これは、新聞にも、付和雷同の主体性のないキャラクターとして紹介されていた。すなわち、作者の主体性のなさが出ているのである？ところで、実は、この原稿書きなおしているのだ。最初は、クソ真面



私に名前をつけて

目な人とのコミュニケーションについて書いていたのだが、まわりの人にあなたらしくないとか、キャラクターのことを知りたいとか言われると、この付和雷同の精神が頭をもたげてずる、この原稿を書いているのである。

話を元へもどして、他の私のキャラクターは、怪物や動物が多い。口の悪い友人などは、「怪物をよく理解しているはずよね、怪物が2本足で立ったような人だもんね」「それは言えとる」と失礼な冗談を平気で言っている。ちなみにその友人の作るキャラクターは全部・ブタ・体形である。どうもキャラクターを作っていると、自分(?)が見えてくるようである。

今、書き終ろうと思ったが、最後に一つ、今回の神戸っ子に出したカラスのカットで、私は一つ自分に理解を深めました。どうやら、おしやべりについても、少し理解しているようである。

□カラスの名前、公夢中です。いい名前をつけてやって下さい。賞(三四)七五三七まで

## 有吉佐和子さんと の出逢い

吉田 量子

ハ薇館屋オーナー



私が丸尾長顕先生の門下生であつた、昭和三十六年頃の話で

ある。東京は四谷三丁目目の細い路地を入った所に、ドームという屋号の小さなスタンドがあつた。作家や歌舞伎役者、若い芸能関係の連中が屯する店で、客達は仲間意識が強く、家庭的な雰囲気のある店だつた。その日は確か、小雨の降る秋口。十人程入ると満席になるこの店に、男女の先客があつた。こんな場所に不似合なぐらい地味な一人の女性。当時、才女作家として、その名を欲しいままにしていた、作家の有吉佐和子さん、その人である。その日は譜面の打ち合せでこの店にやって来て、ピアノの先生を待っていた。たまたま隣り合せになった有吉さんを、そのママに紹介され、それが縁で、お知り合いになった。確か、日本フィルハーモニーのフルート奏者でいらつしやる鈴木さんが、有吉さんと御一緒であつたはずだが、その時の有吉さんのお話が、あまりにも印象的であつたので、今でもはつきりと覚えてい

る。  
『私って随分散文的な女なのよね。だって、彼が、今度帰国したら、僕とふぐ茶漬食べてくれるかいって言ったのね。あら、私さけ茶漬なら好きだけど、ふぐ茶漬なんて大嫌だって言ってしまったけど、彼は、朝食を共にしてくれるかと言う事だったのよ。私ふぐ

って聞いただけでだめなのよね。彼にすりやあ、さけでもふぐでも、どちらでもいいのよ。言つた後で、しまったと思つたけど、失敗よね。あれは彼特有のプロポーズだったのよ。私って本当にだめなのよね』

この時のお話は、これで終わっているのだが、この話を聞いていて、随分照れ屋さんなのだなあと感じたものだ。漏れ聞く所によると、当時、婚約を解消されたらしいが、その二、三年後には、神彰氏と結婚されている。あの話は、後悔された話なのか、それとも、お惚気であつたのだろうか？

以前、私が出演していた薬屋に尋ねて下さつた事があつて、随分恐縮した事があつた。東京と言う増埒の中で、青春を精いっぱい生きていた当時、そんなに豊でない心の隙間を、その頃の有名作家が、通りすがりとは言え、わざわざ立寄って下さり、大変嬉しい思いをさせてもらった。そして、なんとさりげなく、さわやかな方であらうかと。女さかりでいらつしたあの頃、

「私って、随分散文的な女なのよね」

やや早口の、ちょっと鼻にかかった甲高い声が、今も懐かし、この耳に深く残っている。

どうぞ、安らかに……合掌。

随想

旅のかたち

〈2〉

# 乗物

安水稔和

絵／中西勝

とつぷりと日が暮れてから海沿いの寒村のバス停で飛び乗ったバスは闇のなかを揺れに揺れて走る。乗客はまばら。それも止るたびに降りる。姿を消す。一番うしろの座席に坐りこんで私は揺れている。窓ガラスの外の闇を白いものが激しい勢いで飛び去る。震動が止み最後の乗客が降りていったあと、道はのぼりにかかったらしい。バスは身ぶるいして闇へ突っこんでいく。

一人取り残された車内。車内灯のわずかの明かりにかすんで震えている冷えた湿った空気。そのむこうにぼつんと見える運転手の黒い帽子。ひょっとして、あれは帽子だけ。濡れた靴のなかの凍りついた足指をそっと動かしてみる。思いだしたように、湿った煙草を取り出してくわえる。かじかんだ指で湿ったマツチを擦る。うす暗い空気がぼおっと明からむ。明滅が窓ガラスに映っている。激しく震えている。

ふと、笑いがこみあげてくる。さっき降りた最後の乗客の言葉。「この冷えるのに、ごころうなことです。」それからバスを待つあいだ裏の風呂のたき口で火にあたらせてもらったときの雑貨屋のおかみさんの言葉。「ほんに、ものずきだのう。」バスは雪の峠を越えることあたわず。別の道を迂回しているらしい。さて、どこへ。雪の山路を

いったいどこへ。ごころうなことです。ものずきなことです。窓ガラスも砕けんばかり、バスは激しく揺れて闇のなかへ降りはじめた。

昼すぎに駅前のバスターミナルで飛び乗ると、バスは走りに走る。雪の原を突っ走る。真冬の湖を見たいとおもい。真冬に行けるはずはないとおもい。それがなんと、湖行のバスをみつけたのだ。それで飛び乗ったのだが、はたして湖まで連れていってくれるかどうか。

雪の原走りつづけて、やっと雪に埋もれた町に入って一服。ここで乗客の大半が下車。家々の黒い柱。道の黒い雪。道行く人の黒い衣服。

それからまた走り出す。乗客数人。雪の原へ出て、傾きはじめた太陽を追いかけるように、しだいに台地へ、そして川筋をさかのぼる。山ぎわの人家の影を見すてて見すてて分け入る。

夕闇がしのび寄るころ、狭い谷あいに入っていく。凍りついた白い樹々のしたをくぐり抜けていくと、うす暗い谷の両側に滝があらわれた。飛び散るように凍った白い花のような滝。閉じこめるように凍った青い壁のような滝。さまざまの滝が白い樹間に次々とあらわれた。息を呑む。

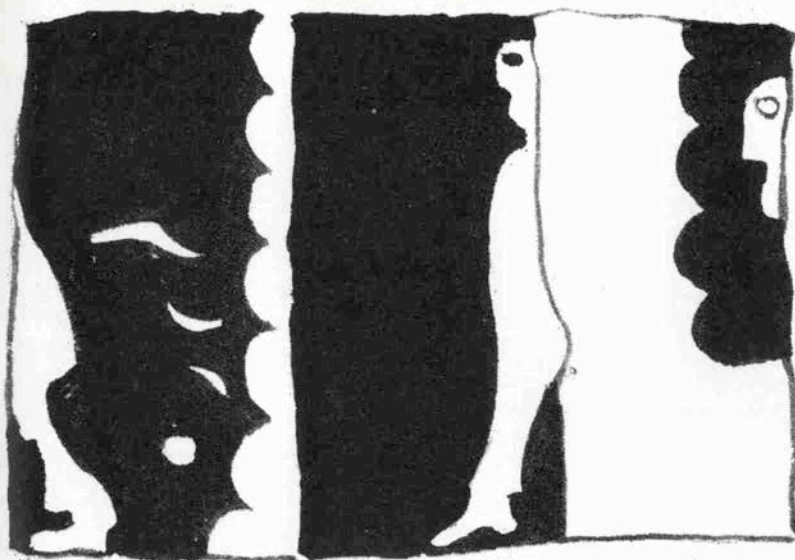
雪と氷の谷を抜けると、湖があらわれた。バス



は小休止。風と波の打ち寄せる湖岸には氷が逆立って牙のように並び立つ。そのむこうの荒涼とした湖。見るまに色変える空。そして闇へ帰る水。濡れるのも忘れて見入る。茫然。

バスはすっかり暗くなった湖岸を雪蹴散らして走り出す。バスはたしかに真冬の湖に連れてきてくれた。窓の外のある闇が湖だ。さて、これからどうなる。今夜はどうなるのかな。

乗物は目的地へ到着するための手段であるのだ



(Morris, M)

が、そうとばかりはいいきれない。乗物自体が旅なのだと、おもいかえして考えている。夜行列車。連絡船。通勤電車でさえ考えようによっては。古めかしいバスの話が二つづいたので、こんどは列車の話をしよう。これも古い話、汽車といったほうがいい頃のことだが。

やって来た列車に乗る。何日までに帰らないといけないというわけではない。といって、あちこち回る気はもう失せた。一週間走り回った旅の果て。今は座席に身をゆだねて流れをくだるように帰るばかりである。

やって来た列車に乗り。気がむいたところで下車して。気がむいたときにまた乗って。腰が痛くなれば下車してひと休み。陽が落ちれば下車して一泊。

列車は乗客をいっぱい吸いこむ。飛び交う人の声。人いきで眼鏡が曇る。かとおもうと、どっと吐き出す。がらんとした車内。露出過度のフィルムのような窓外の風景。きちんと座ったり。前に足を投げ出したり。靴を脱いで座りこんだり。誰もいなくなると横になったり。

山の形が変わる。海の波いつまでも。町を抜け。川を渡り。腰の曲ったおばあさんにみかんもらったり。はにかむ少女に話しかけたり。ウィスキーなめなめ。やがてあらわれるわが街神戸まで。日常ではない別の時間のなかをゆっくりと流れる。

△詩人▽

● こうべ味な旅⑥

ビーフイーター

# 肉食いの原点は

## A-1から

松山 猛 (エッセイス)

カット・石阪春生

はじめて神戸に行ったのは、まだ昭和二十年代で、僕はまだ小学校にあがっていなかったから、おそらく二十七、八年頃。

父親の商用のお供をして、国鉄に乗って行った。当時は、小型三輪車のタクシーがあり、三宮駅前から父の得意先へ、それに乗って行った。料金は60円くらいだったと思う。

その頃ちょうど、戦後初の一万トン・タンカーができたというので、父は『つばめ丸』という、そのタンカーに連れて行ってくれた。見上げるように大きな船を、僕は生まれてはじめて見た。しかも父はタラップをどんどんと登って行くのである。

どんなコネクションがあったものか、僕らは船内を案内してもらえた。まだ船内の饗装の最中だったが、巨大な吹抜けの機関室への細く狭い階段を降りると、エンジンのガンガンという回転音と、無数のパイプ類の熱さに僕は仰天して、多分ペそ

をかいにちがいない。

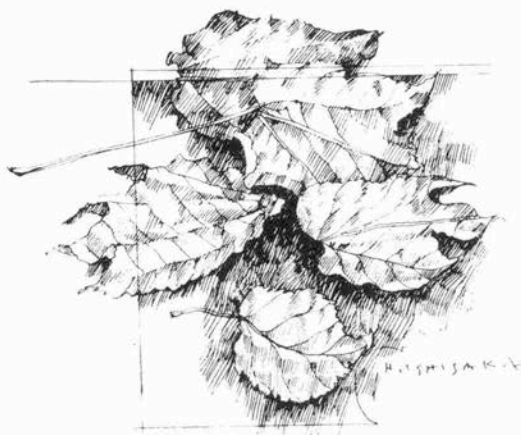
だから神戸は、僕にとって、決定的にエキゾチシズムを植え付けたのである。その最初の出合いから。

その神戸へ、よく行くようになったのは、高校生になった頃からだ。アルバイトで得た自由に見えるお金を持って出かけるようになった。高架下には、アメリカの珍らしいファッションがあり、靴もまた安かったから。

あの頃だから、明石焼とかドンクのサンドイッチなどが、僕の神戸的なごちそうだった。

当時、明石焼きは京都では食べさせる店がなく、面白がって食べた。あの、ぶわんとした歯ざわりと、薄味のダシが、えもいわれずおいしかった。なにしろ高架下から北野町とずいぶん歩きまわった後なので、空腹の度合もすごかったのだ。

やがてA-1をだれかに教えてもらった。東門



筋の方から、神社の境内を抜けたあたりの、カウ  
ンターになっている店。鉄皿にのせられ、まだ大  
きな音をたてて焼けているステーキは、本当にお  
いしかった。もともと肉好きだったのが、よけい  
に開眼してしまったのである。

そののち、もっと気取ったステーキの店をいろ  
いろ知ったが、僕にはA-1が、肉、喰いの原  
点である。神戸へ行くと、つい立寄ってしまう。  
布引の公団アパートに、友だちが住んでいた時  
期があり、その頃は宿代がかからなかったから、  
東京から京都、神戸へとよく遊んだ。東門筋のパ  
ー、デュボネが僕らの溜り場だったから、A-1  
へもよく行ったのだ。東門筋と言えば、何軒かあ  
る古道具屋で、大きなオルゴールを見つけたこと  
があった。

畳一枚ほどある大型の物で、店に置いておいて  
も邪魔になってしかたがない、安くするから持つ  
て行け、というのだが、ふと考えてみると、本人  
ですら身の置場に困っているのに、巨大なオルゴ  
ールなど、どこに置けばよいのか。

おそらく戦前に、船に積まれて神戸にやってき  
たはずのオルゴールだった。そのような物がある  
のも、やはり神戸ならではのことだ。

さて、僕ら仲間は、南京町にもよく出かけた。

僕のひいきは民生飯店と楽園酒家。これは今でも  
変わらない。民生飯店には、肉の厚い紋甲イカの  
天ぷらがあるが、あれは絶品である。かしひと  
頃、イカや海老のコレステロールまで悪役扱いを  
された時期があって、しばらく食べなかった。最  
近ではイカのコレステロールは良質であるとされ  
たが、あの頃がまんしたのが腹だたしい。

なにによれ、食べること、飲むこと、これをお  
いしく感じられるあいだは健康なのだと、最近ほ  
思う。自分の体が求めている物を、おいしくいた  
だければよろしいのである。

楽園酒家は、さっぱりとした味付けで、鶏肉と  
青菜を煮込んだ麺などがよろしい。老酒のオンザ  
ロックスを片手に、ふうふうと言いながら、熱い  
麺をいただく。季節であれば蟹の料理もよろしか  
ろう。

神戸はやはり、贅沢な土地である。ほどよい大  
きさの都市なのに、びっしりと旨い物を食べさせ  
る店にあふれていて、そして買物の楽しみもある。  
そのくせ、ちょっと走れば郊外の風景がある。古  
くからインターナショナルな性格を持ってきたか  
ら、洒落て暮すのにはもって来いだ。會員制のコ  
ーヒー店なんて、他の街では考えられぬ。良いと  
か悪いとかではなく、やはり神戸という都市のサ  
イズが、生み落した風景なのかと思う。

ただひとつ残念なのは、北野町の精神的な風化  
だ。昔はひっそりと美しいたたずまいだったが、  
このごろはクレープやらアイスクリームを持った  
軍団に占領されちゃった。シャツにべったり、ア  
イスクリームをくっつけられる怖れを抱きつつ、  
あの道を歩かなくてはならなくなった。

キスマークは家庭に不協和音をもたらし、アイ  
ス・マークは、シャツをだいなしにしてしまう悪  
魔である。



#### 〈著者紹介〉

一九四六年、京都生まれ。グラフィック・デザイン出身。帰って来たヨッパライの作詞で有名になり、フリーランス編集者として平凡パンチ、ポパイ、ブルータス等多くを手がけている。CFのプロデュースなど多方面で活躍している。



わが家の小さな恋人も...

Merry  
Christmas

イヴは主役。

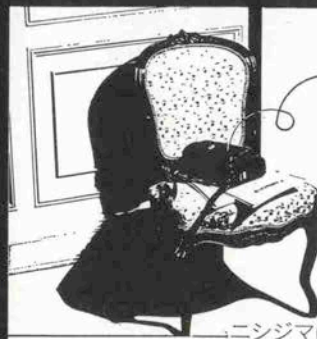


北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・店内店 神戸市中央区舞内町1-8 TEL 221-1164

バッグ・帽子も洗えます。



手にもつバッグは  
手ア力で  
汚れています。  
一度ニシジマで  
リフレッシュして  
みませんか。

ニシジマにご相談ください。



● サービス内容 ●

- 型くずれの防止 ●素材感の回復 ●お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成 ●ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号  
ヒューズトン101 ☎(078)332-2440

# 『邯鄲の夢』

太田 義人 △歴史学研究室▽

ある日盧生は旅先で、呂翁という道士に出会った。黍が蒸し上がるまでの一時に、彼が出身出世の志を語り始めると、道士は手荷物の中から青磁の枕を取り出し、彼に進めた。その枕で眠れば、榮耀榮華、思いのままというのである。早速、枕に頭をあずけようとした彼は、枕の端に小さな穴があいているのに気づいた。覗いてみると、中は明るく、全くの別天地がひらけている。そこで、彼は身をかがめ、枕中に入ってみた。その世界で、彼は、たちまち中書令から燕国公へと榮達を遂げ、富貴を為し、子宝に恵まれ、齢八十の長寿を全うした。その時、目醒めた彼は、なんと、未だ黍が蒸し上がっていないことを知り、人生の短かくはないことを悟ったのである。

有名な故事なので、御存知の方



「邯鄲の夢」を想わせる…関帝廟

も多いだろうが、この話は、唐の伝奇『枕中記』にある「邯鄲の夢」である。「炊の夢」ともいわれ、人生のはかなさを我々に教えている。しかし、道士呂翁は盧生に榮華榮達のはかなさを悟らせたにせよ、盧生の夢を叶えさせてもいるのである。

人間は誰しも現世の利益や不老長生を乞い願うものであるが、古来、中国では、道教が、子宝・蓄財・長寿の福祿寿をはじめとして、人々の祈願を成就するものとして、広く信仰されてきた。この話では、道士呂翁は、枕中の幻の世界へと盧生を誘い、彼の望みを叶えさせた。このような外界から閉じられた小世界のパラダイスを「洞天福地」というのだそうである。この盧生のように、道士の方術にあずかり、たとえ幻でも一時の榮達の夢に酔ってみたいというのが、我々にとっても、一つの願望なのではないだろうか。

道士には会えないにしろ、そんな空ろな夢想にひたることのできる場所が、神戸には花隈、中山手通りにある。蜀漢を建国した劉備に武將として仕えた、関羽を祀る「関帝廟」がそれである。元来は

武神であるため、孔子廟が文廟と称されるのに対し、武廟と呼ばれている。道教では、関帝は伏魔大帝ともいわれ、地獄の有力な神とされており、その怒りにふれると、雷にうたれて死ぬと信じられている。しかし、同時に、庶民の間では老爺と親しまれ、財神として信仰されてきた。また同業者組合などの守護神としても、ひろく祀られてきた。

中華民国38年（一九四九年）に創立された、神戸の「関帝廟」は、住宅地の静かな佇まいの中にある。境内には、木々の緑に、朱と金銀の色彩が燦然と輝く世界がひろがっている。金亭と称する紙銭の焼却場で金紙・銀紙を焼き、関帝に賽銭を献上した後、筒に入った竹軸を一本選り出し、靈籤を引く。そして、「忠義仁勇關聖帝君」の小垂幕が下がった祭壇に跪き、一心に願い事を念じ乍ら、一對になった三日月形の小木片を放り投げ、籤の可否を問う。こんな姿を、台北市を訪れた折、関帝廟や他の道教寺院でよく見かけたが、神戸では滅多に見られない。境内も静寂につつまれている。

我々は、これまで、「脱亜入欧」をスローガンに、西洋文明をモデルとして、科学性と合理性を追求してきた。そして、港町神戸も、西洋への憧れをかりたてる、ハイカラな街とされてきた。しかし、アジアの一員である我々にとつて、この「関帝廟」は東洋文化を再認識する場となりはしないだろうか。